

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成23年2月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替 00190-5-396045

名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

## 平城京遷都 1300年から考える

奥村 和夫

(財)天理よろづ相談所病院 精神神経科  
天理医療大学(設立準備室)教授  
大阪会場 基礎課程(精神)講師

平城京をご存知でしょうか。地理的には現在の奈良市から大和郡山市に及ぶ、東西と南北おおよそ4km四方の地域を指します。元明天皇の和同三年(西暦710年)以後七代の都です。平城「京」といわれてもピンとこない方もおられるのではないのでしょうか。その理由はこの地に「京」がおかれていたのはわずか70年余りの短期間であったことにあると思います。都が長岡京から平安京に移り、藤原氏一族の抗争の後は急速に荒廃していったようです。

ところでご承知のように、『青丹よし奈良の都は咲く花のにはほふがごとく今盛りなり』と詠まれたこの70余年の奈良時代の光芒も、唐の存在なしには語れないでしょう。当時の唐は世界の先進国であり、日本の朝廷も十数回にわたり遣唐使を派遣しています。しかし無事帰国し吉備真備のように後世に名を遺した人はごくわずかです。多くの留学生が渡航の際に遭難し、途上で没しています。

情報がいかに重要であったかはなにも今に始まったことではなく、当時は一国の盛衰を賭けていたのです。気概のあった遣唐使のおかげで、辺境であった日本に海外の最新の情報がもたらされ、奈良時代が築かれたといえるでしょう。

東大寺や唐招提寺を訪れると、遙か天平の時代に、悠久の歴史の流れの中に消えていった遣唐使たちの活躍を考えずにはおれません。

さて、情報社会と呼ばれるようになって久しい現代は、逆に情報が氾濫しており、何が必要で何が不要な情報であるかを見極めることがますます難しくなっている時代とも言えます。このことは、特に必要でもない情報に日々振り回されている私にとっては、他人事ではない深刻な問題でもあります。

江戸時代の寺子屋の必修科目は「読み、書き、そろばん」ですが、現代を生きる私たちには「読み、書き、算数」にプラス「情報管理」のスキルが必要不可欠になってきているのではないのでしょうか。あふれかえる大量の情報をそれなりの精度で管理していくスキルは、特に医療の分野においては、今後は今以上に専門的能力として期待されることでしょう。

情報量が増えるとそれだけで私たちにはストレスになります。増大する情報を管理してストレスを軽減していこうではありませんか。